資料４

放射線治療専門医を対象とした物理技術専門職に関するアンケート調査結果と今後の課題

JASTRO医学物理士委員会　委員長
大野　達也（群馬大学）

対象1,362名中、471名（35%）からの回答

物理技術専門職とは、診療放射線技師、医学物理士、放射線治療専門技師、放射線治療品質管理士等とします。

1

①先の2年の調査まとめ

1. **放射線治療専門医**を対象とした物理技術専門職に関するアンケート調査の結果、対象1,362名中、471名（35%）からの回答を得た。
2. 3D-CRTといった通常治療、高精度治療ともに、①輪郭描出（標的）、**②輪郭描出（リスク臓器）、③治療計画（ビームアレンジメント、線量計算）**が負荷の大きい業務であり、②と③が**タスクシフト・シェア候補**として挙げられた。
3. タスクシフト・シェアを実現した将来、医師が望む治療部門の業務分担として、輪郭描出（リスク臓器）、治療計画（ビームアレンジメント、線量計算）、**放射線治療装置の機器の品質管理業務全般、放射線治療全体の品質マネジメント**は、**"照射撮影業務を担当しない物理技術専門職"**が担当すべきとの回答が最多であった。
4. "照射撮影業務を担当しない物理技術専門職"の配置が医師、看護師、診療放射線技師と比較して不足しており**雇用が必要**との回答が多かった。**「専任」から「専従」の配置**とすることで、"照射撮影業務を担当しない物理技術専門職"の雇用が推進されるとの意見が多かった。**適性配置人数の基準**については、「施設あたり1名以上の常勤専従」が最多であるが、遠山先生のグループで検討中。
5. "照射撮影業務を担当しない物理技術専門職"の**身分保証、配置に対する診療報酬の増点、配置を施設基準に追加すること**が雇用確保に必要との回答が多数を占めた。

2

②先の2年の成果の論文化予定
→「臨床放射線」など？

③今後の3年間の計画（目標と方法、想定される成果）
→提言をまとめること。遠山先生らのグループと統合した形で関連団体（職種）の一つとして活動したい。

④本年度の計画
→同上

⑤資金援助の希望
→論文化、会議に際し必要な分

3